

中 学 校

平成24年度

# 教育研究員研究報告書

社 会

東京都教育委員会

## 目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究の仮説	3
IV	研究の方法と内容	3
1	研究の方法と内容	3
2	検証授業	6
(1)	歴史的分野	6
(2)	地理的分野	15
V	研究の成果	22
VI	今後の課題	23

## 研究主題

# 思考力・判断力・表現力を育む指導と評価の工夫

## I 研究主題設定の理由

OECD（経済協力開発機構）のPISA調査などの各種の調査で、我が国の児童・生徒については、「思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式問題、知識・技能を活用する問題に課題」がみられるところである。このため審議が開始された中央教育審議会においては、教育基本法や学校教育法の改正も踏まえ、平成20年1月に答申を行った。この答申の趣旨を生かす上で私たち指導者に求められていることは、知識基盤社会化やグローバル化が進む時代にある今こそ、世界や日本に関する基礎的教養を培い、国際社会に主体的に生き、公共的な事柄に自ら参画していく資質や能力を育成することである。そのためには、基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得に努めるとともに、思考力・判断力・表現力等を確実に育むため言語活動の充実を図り、社会参画に関する学習を重視することが必要である。

平成20年に告示された学習指導要領の下での学習評価については、生徒の「生きる力」の育成を目指し、生徒一人一人の資質や能力をより確かに育むようにするため、学習指導要領に示す目標に照らしてその実現状況をみる評価を着実に実施し、生徒一人一人の進歩の状況や教科の目標の実現状況を的確に把握し、学習指導の改善に生かすことが重要であるとともに、学習指導要領に示す内容が確実に身に付いたかどうかの評価を行うことが重要である。

また、今回の観点別学習状況の評価の改善は、特に、学力の重要な要素を示した学習指導要領等の趣旨と関連している。学校教育法の一部改正を受けて改訂された学習指導要領の総則に示された学力の三つの要素を踏まえて、評価の観点に関する考え方が整理された結果、「思考・判断」が「思考・判断・表現」となり、「技能・表現」が「技能」として設定されることとなった。さらに、各学校や設置者の創意工夫を一層生かしていくことが求められており、各学校では、組織的な取組を推進し、学習評価の妥当性、信頼性等を高めることが重要である。

実際、文部科学省が平成15年と平成21年度に、教師と保護者を対象として実施した、学習指導と学習評価に関する意識調査から、次のような課題が明らかになった。

- ・指導者の指導と評価の一体化について課題がある。
- ・「思考・判断」の評価の円滑な実施について課題がある。

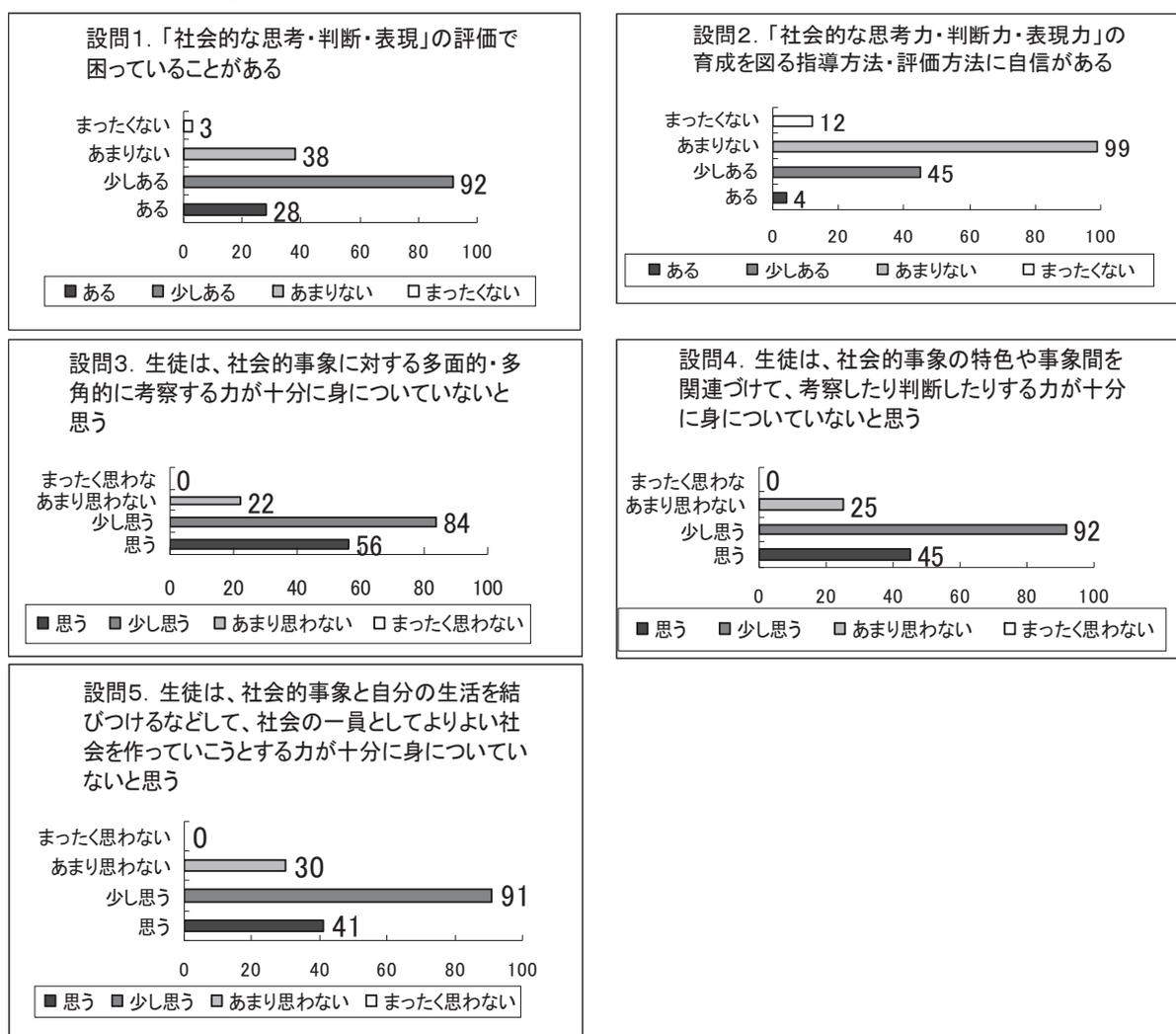
今回、私たちは、「思考力・判断力・表現力を育む指導と評価」に関するアンケート調査を、研究員が所属する区市の社会科教員を対象に行った。その結果【別表1】から、多くの指導者は「社会的な思考力・判断力・表現力」の育成を図る指導方法・評価方法に課題意識をもっていることが明らかになった。また、生徒の社会的事象を多面的・多角的に考察する力や、社会的事象の特色や事象間を関連付けて、考察したり判断したりする力、社会的事象と自分の生活を結び付けるなどして、社会の一員としてよりよい社会を作っていこうとする力が十分に身に付いていないと考える指導者が約8割いることも明らかになった。

私たち教育研究員も、日々の授業実践の中で、生徒の思考力・判断力・表現力の育成、ま

たその評価について課題があると考えている。

私たちは、これらの課題を解決し、習得した知識、概念や技能を活用して、社会的事象について考えたことを説明したり、自分の考えをまとめて論述したり、議論などを通して考えを深めたりすることを通して、公共的な事柄に自ら参画し、よりよい社会の形成者になろうとする生徒を育てたいと考えている。そのために、単元指導計画に言語活動や評価の場を設定し、思考力・判断力・表現力を向上させたいと考えた。そこで、本研究では、研究主題を「思考力・判断力・表現力を育む指導と評価の工夫」と設定した。

【別表1】 「思考力・判断力・表現力を育む指導と評価」に関するアンケート調査結果



## II 研究の視点

学習指導要領中学校社会科の改訂の趣旨には、「公共的な事柄に自ら参画していく資質や能力を育成する」とある。また、そのために「基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得に努めるとともに、思考力・判断力・表現力等を確実に育むため言語活動の充実を図り、社会参画に関する学習を重視することが必要である」とある。

私たちはこの趣旨を踏まえ、自ら社会に参画していく資質や能力を育成することに注目し、次の2点の工夫を行うこととし、これらによって、生徒の思考力・判断力・表現力を育むことができる考えた。

- ① 指導者が指導計画を作成する際に、単元及び一単位時間の目標を明確にし、目標を達成するために既習事項や単元内で習得させた知識・技能を活用しながら、よりよい社会の実現を目指して社会的事象を考察するような学習課題を設定する。
- ② 生徒が自己評価や相互評価を行う場面や、指導者が学習活動を繰り返し評価し、指導する場面を設定する。

### Ⅲ 研究の仮説

本研究では、次の点を指導と評価の工夫として考え、これを意図的・計画的に配置し、継続して行っていくことで、生徒の思考力・判断力・表現力を育むことができると仮説を立てた。

よりよい社会の実現に向けて、習得した知識や技能を活用し、社会的事象について考えたことを説明したり、自分の考えをまとめて論述したり、議論などを通して考えを深めたりすることができる学習課題を、単元指導計画に取り入れる。思考・判断・表現した内容を客観的に評価し、指導を繰り返すことで、生徒の思考力・判断力・表現力を育むことができる。

### Ⅳ 研究の方法と内容

#### 1 研究の方法と内容

本研究は、研究主題及び仮説を設定するに当たり、社会科教員を対象として、思考力・判断力・表現力の指導と評価に関するアンケート調査を実施した。

その後、仮説に基づき、生徒の実態を考慮しながら、単元指導計画と「思考力・判断力・表現力を育む指導のポイント」(以下、「指導のポイント」とする。)の検討及び作成を行った。単元の最初には、学習のねらいを明確にし、学習課題と「指導のポイント」を生徒に示した。生徒が表現した内容は「指導のポイント」に基づいて、生徒が自己評価と相互評価を行うとともに、指導者も評価を行った。生徒の思考力・判断力・表現力の向上については、検証授業での授業観察とともに、記入したワークシートの表現内容を分析した。さらに、生徒の実態に応じた「指導のポイント」の示し方や、生徒の実態に応じた学習課題について検討を繰り返すことで、研究の仮説を実証した。

今回、「指導のポイント」を事前に生徒に示し、学習活動を行った。1年生の段階では、習熟の度合いに応じて考察や判断の仕方、それらを適切に表現する方法などを丁寧に指導し、2年生

で少しずつ「指導のポイント」を発展させ表現力の向上を図っていくことができれば、3年生では「指導のポイント」を示さなくても、自分の思考・判断を表現していけるようになると、私たちは考えた。つまり、「指導のポイント」を生徒が理解し、指導者の評価及び指導を

#### 《思考力・判断力・表現力を育む指導のポイント》

- ①自分の意見の根拠を述べる
- ②根拠がわかりやすく納得できるものにする
- ③根拠を具体的に示す
- ④根拠に複数の視点をもつ

繰り返し受けたり、相互評価や自己評価などの活動によって「指導のポイント」への意識を深めていったりすることで、思考力・判断力・表現力を育むことができると考えた。

生徒が、学習課題に対して、自分の考えをまとめ、その根拠を説明する形態をとった。「指導のポイント」は前ページの《思考力・判断力・表現力を育む指導のポイント》のとおりである。

①は学習課題に正対させて、根拠のある意見形成を促すために設定した。②では、論理的な思考力を求めている。これは、学習指導要領にあるように、社会的事象を相互に「関連付けて考察」できているかを判断するものとして位置付けた。具体的には語句と語句、文章と文章が関連付いていて、自分の主張内容を十分に



説明できるように指導する。思考力・判断力とともに、相手にとって分かりやすいものになっている表現力を指導することも重要なポイントである。

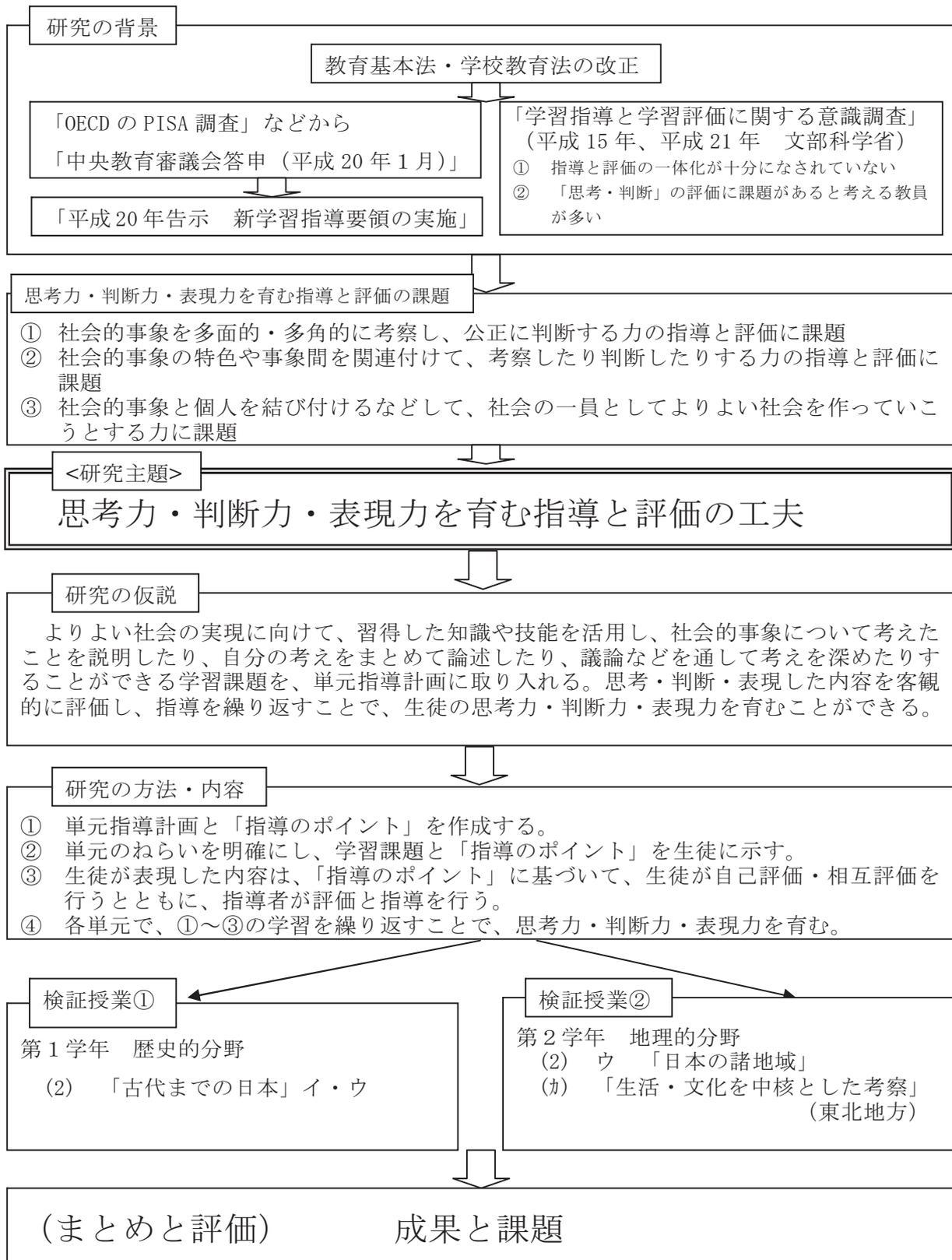
③は、社会的事象の「基礎的・基本的な知識」の活用を促すために設定した。これは、学習指導要領の総則に示された学力の三つの要素を踏まえて設定した。一般的抽象論で論理的にまとめるだけではなく、単元を通して習得した知識を活用し、文章をつくることは重要なポイントである。

④については、「多面的・多角的な考察」を促すために設定した項目である。つまり、どのような社会的事象にも別の角度から複数の解釈ができるということに気付かせることによって、思考力・判断力を深めるねらいがある。

以上の「指導のポイント」で、授業内ではグループワークの際に互いの主張と根拠を相互評価させた。繰り返し行うことで「指導のポイント」を強く意識させるとともに、自らの意見を評価・指導を受けることで、自分の考察や表現に足りないものを認識させることができると考える。

また、指導者が設定する学習課題は、よりよい社会の実現に向けて、生徒が習得した知識や技能を活用し、社会的事象について考えたことを説明したり、自分の考えをまとめて論述したり、議論などを通して考えを深めたりすることができる内容とした。さらに、指導者は学習課題を単元の最初に生徒に伝えておいた。以上の工夫により、指導者が生徒に学習の見通しをもたせるとともに、生徒の学習意欲を更に向上させられるようにした。ワークシートについては、生徒が根拠となる社会的事象に基づいて考察し、かつ、自分の言葉で表現できるように工夫した。

【研究の全体構想図】



2 検証授業

(1) 歴史的分野

ア 単元名 学習指導要領 歴史的分野(2)古代までの日本 イ ウ

イ 単元の目標

- (ア) これまでの学習内容を有効に活用し、古代の歴史的事象に対する関心を高め、意欲的に追究し、古代の特色を捉えようとする。
- (イ) 律令国家の確立に至るまでの過程、撰関政治、仏教の伝来とその影響、仮名文字の成立などから課題を見だし、古代の政治や文化の特色について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現する。
- (ウ) 律令国家の確立に至るまでの過程、撰関政治、仏教の伝来とその影響、仮名文字の成立などに関する様々な資料を収集し、古代の政治や文化の特色に関する情報を適切に選択し活用する。
- (エ) 大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことや、国際的な要素をもった文化が栄え、後に文化の国風化が進んだことを理解しその知識を身に付ける。

ウ 単元の評価規準

	ア 社会的事象への関心・意欲・態度	イ 社会的な思考・判断・表現	ウ 資料活用の技能	エ 社会的事象についての知識・理解
単元の評価規準	① 律令国家の確立と天皇や貴族の政治の展開、国際的な要素をもった文化と文化の国風化など、古代の歴史的事象に対する関心を高め、意欲的に追究し、古代の特色を捉えようとしている。	① 律令国家の確立に至るまでの過程、撰関政治などについて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 ② 仏教の伝来とその影響、仮名文字の成立などについて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	① 律令国家の確立に至るまでの過程、撰関政治などに関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。 ② 仏教の伝来とその影響、仮名文字の成立などに関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	① 大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族の政治が展開したことを理解し、その知識を身に付けている。 ② 国際的な要素をもった文化が栄え、後に文化の国風化が進んだことを理解し、その知識を身に付けている。
学習内容に即した具体的な評価規準	A 古代の特色を捉える活動に意欲的に取り組み、次の中世の学習に対しても関心を高めている。	A 西日本の守りを固めつつ国力を上げるための取組をおこなっていった理由や、東アジアの情勢や白村江の戦いといった歴史的な事象を基に考察し記述している。 B これまでの学習内容を生かして、古代に律令国家が生まれた理由について考察し、記述したり意見交換したりしている。 C 公地公民の原則が崩れていった理由を、歴史的事実を基に考察し記述している。 D 飛鳥文化が栄えた理由を仏教の伝来と関連させ考察し記述している。 E これまでの学習内容を有効に活用して、古代とはどのような特色をもった時代区分だったのかを考察し、記述したり意見交換したりしている。	A 聖徳太子の政治改革に関する資料から内容やねらいを適切に読み取っている。 B 年表や資料を活用し、国内に平城京のような大規模な都が造られた理由や、その平城京や律令制度が中国をならいにつくられた理由を適切に読み取っている。 C 奈良時代の食事や課税の資料から、農民たちの生活の様子を適切に読み取っている。 D 系図などの資料を活用して、藤原氏が勢力を強めていった過程を適切に読み取っている。 E 日本の仏像仏画資料とアジア各地の資料を見比べながら、共通点を見出すことができる。 F 天平文化に関する資料やシルクロードの描かれた地図を参考にして、天平文化の特色を見出すことができる。	A 大化の改新以後、律令国家の確立に向けて制度を整えていったことを、東アジアの動きと合わせて理解している。 B 律令制定、都の造営、地方への支配の広がりについて理解している。 C 聖武天皇の政治展開の内容と、東アジアだけでなく中央・西アジアともつながる天平文化の興隆について理解している。 D 桓武天皇の政治の内容と、東北地方への支配が進んだことを理解している。 E 唐の衰退と遣唐使の停止など、東アジアの変化とそれに対する日本の動きを理解している。また、その過程でもたらされた新しい仏教の特色を理解している。 F 仮名文字の成立や平安時代の文学作品からこの時代の文化の特色を理解している。

## エ 単元について

古代の日本においては、大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら律令国家が確立し、その後、天皇や貴族の政治が展開した。また、国際的な要素をもつ文化も栄えた。これは、変動する東アジア情勢に影響を受けつつも日本が自国の発展を図ってきた表れである。そこには、「よりよい社会をつくろう」とする当時の人々の思いやねらいがあったと考える。このように歴史が展開していく理由を考察し表現する学習を通して、現代社会の形成に必要な資質や能力の育成につながると考える。このことは「国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」とした社会科教育の目標の達成や、「思考力・判断力・表現力を育む指導と評価の工夫」とした本研究主題の実現に沿うと考える。

## オ 単元の指導計画と評価計画（9時間扱い）

時	学習項目	学習内容と学習活動	学習内容に即した具体的な評価規準（評価方法）
1	聖徳太子の政治改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>第4時に取り組む学習課題を伝える。</li> <li>聖徳太子の政治改革の内容や目的を、地図や年表、資料から読みとったことを基に理解する。</li> <li>飛鳥文化のおこりを仏教の伝来と関連付けて考察し説明する。また、飛鳥文化の特色を、東アジアの仏像資料と比較しながら見出す。</li> </ul>	ウーA (ワークシート) イーD (ワークシート) ウーE (ワークシート)
2	大化の改新	<ul style="list-style-type: none"> <li>大化の改新から律令国家の確立に至るまでの過程を東アジアの動きと合わせて理解する</li> <li>西日本の守りを固めつつ遷都や戸籍の作成に着手していった理由を考察し、説明する。</li> </ul>	エーA (ワークシート) イーA (ワークシート)
3	律令国家の成立と平城京	<ul style="list-style-type: none"> <li>律令制度のしくみを理解する。</li> <li>平城京という大規模な都が造られた理由や、その平城京や律令制度が中国をならった理由を、年表や資料を活用して読み取り、説明する。</li> </ul>	エーB (ワークシート) ウーB (ワークシート)
4	章前半のまとめ (本時)	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学習課題「律令国家が生まれた理由を考察し、説明する。」</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>律令国家が生まれた理由について考察し、説明する。相互評価を行い、自分の解答を改めて書く。</li> </ul>	イーB (ワークシート)
5	奈良時代の人々のくらし	<ul style="list-style-type: none"> <li>奈良時代の人々の生活を、資料を活用して読み取る。</li> <li>公地公民の原則が崩れていった理由を考え、説明する。</li> </ul>	ウーC (ワークシート) イーC (ワークシート)
6	天平文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>聖武天皇の政治と、天平文化の内容について理解する。</li> <li>天平文化の特色を読み取る。</li> </ul>	エーC (ワークシート) ウーF (ワークシート)
7	平安京と東アジアの変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>平安時代はじめの政治の内容を理解する。</li> <li>平安時代の新しい仏教の特色や、東アジアの変化について理解する。</li> </ul>	エーD (ワークシート) エーE (ワークシート)
8	摂関政治と文化の国風化	<ul style="list-style-type: none"> <li>藤原氏が摂政や関白の地位を独占できた理由を資料から読み取る。</li> <li>国風化した文化の特色を、代表的な事例を学んで理解する。</li> </ul>	ウーD (ワークシート) エーF (ワークシート)
9	章のまとめ	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">学習課題「古代とはどのような時代であったのかを考察し、説明する。」</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>古代の特色を考察し、説明する。相互評価を行い、自分の解答を改めて書く。また、古代の学習への取組や成果を踏まえて中世についてどのように取り組むかを考える。</li> </ul>	イーE (ワークシート) アーA (観察、ワークシート)

カ 本時（全9時間中の第4時間目）

(7) 本時の目標

律令国家の確立に至るまでの過程において、大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、天皇の政治が展開したことを理解する。

(イ) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準 (評価方法)
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の目標を確認する。</li> <li>・本時の活動内容についての話を聞く。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     指導者による説明内容                      「本時の活動は、次のとおりです。                      1. 班内で全員が意見発表。それを相互に評価。ワークシート③を使用。                      2. 班代表が意見を発表。それを評価。                      3. 自分の意見を再度記述。ワークシートを提出。」                 </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習課題の評価のポイントを示す。教室前方横の黒板に模造紙にて掲示する。</li> </ul>	
展開 40分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     学習課題「あなたは歴史学者です。TV局が古代の特集番組を作成するため、あなたのところにインタビューにやってきました。アナウンサー『なぜ、律令国家が生まれたのでしょうか？理由はいくつかあると思うのですが、きっかけになったできごとなどを挙げながら、視聴者にわかりやすく教えてください』」                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時のワークシート②を基に、班内で自分の意見（「なぜ律令国家が生まれたのか」に対する自分の答え）を発表する。聴く側は指導のポイントを基に評価する。（10分）</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     予想される生徒の記述内容                      「白村江の戦いで敗れ、日本ももっと団結して強くならなければならないと思ったから」                      「豪族などの争いがなく、天皇を中心とした、まとまっている国をつくりたいから」                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・班としての意見となるよう、個々の答えをまとめる。（15分）</li> <li>・班ごとに意見を発表する。聴く側は、指導のポイントに照らして評価する。指導者による評価と解説を聞く。（10分）</li> <li>・本時の活動で出た意見を参考にし、律令国家が生まれた理由について再び考察して表現する。（5分）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班の全員が活動に参加するように支援する。</li> </ul>	イーB (ワークシート)
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを提出する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班長が中心になり進めるよう伝える。</li> <li>・A3用紙とマジックを渡す。</li> <li>・班の意見を黒板に貼らせる。</li> <li>・班代表を前に出させる。</li> <li>・一つの班を取り上げ、指導者による評価を伝え、良い点や改善点を伝える。</li> <li>・習熟の度合いに応じて、生徒には個別に指導する。</li> </ul>	

(ウ) 指導に当たって

a 学習課題の工夫、ワークシートの工夫

指導者の設定する学習課題は、「律令国家が生まれた理由を考察し、説明する」とした。ここでは、歴史学者となってインタビューに答えるという設定を加えた。また、ワークシートは、律令国家が生まれるきっかけとなる歴史的事象を書く欄とそれを活用して答えを書く欄を分けて書くように工夫した。生徒が学習に見通しをもち、生徒の学習意欲がさらに向上するように、上記のような工夫をした。

b 評価の工夫

・生徒の相互評価に際して、指導者が作成した「指導のポイント」を活用した（下表参照。ただし生徒には平易な言葉に直して提示）。それにより、生徒が自分の考えを自ら

又は相互に評価できるようにした。

・ワークシートは、授業者が回収後評価し、生徒が次回以降の学習活動に生かせるようにした。

<p>「十分に満足できる」状況（A）（以下「A」とする。）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「おおむね満足できる」状況（B）を満たしている上で、次を満たすもの。 文章の論理性が優れていて、表現に説得力がある。</li> </ul>
<p>「おおむね満足できる」状況（B）（以下「B」とする。）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次の二つをすべて満たすもの 習得した知識、概念や技能を活用し、歴史的事実に基づいて考察した結果を書いている。 「外国との関係」と「国内の政治」の両面において考察したことを書いている。</li> </ul>
<p>「努力を要する」状況（C）（以下「C」とする。）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「B」を満たさないもの</li> </ul>

検証授業で使用したワークシート

<p>「古代国家の歩みと東アジア世界についてまとめよう③」p34～p39</p> <p>課題「なぜ律令国家が生まれたのでしょうか？」</p>			<p>1年 組 番 氏名</p>																								
<p>①班の仲間同士で答えを評価しあってみよう</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>班員</th> <th>「理由」をどう答えているか、メモをとる</th> <th>評 価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>君/さん</td><td></td><td>A・B・C</td></tr> <tr><td>君/さん</td><td></td><td>A・B・C</td></tr> <tr><td>君/さん</td><td></td><td>A・B・C</td></tr> <tr><td>君/さん</td><td></td><td>A・B・C</td></tr> <tr><td>君/さん</td><td></td><td>A・B・C</td></tr> <tr><td>君/さん</td><td></td><td>A・B・C</td></tr> </tbody> </table>			班員	「理由」をどう答えているか、メモをとる	評 価	君/さん		A・B・C	<p>②班で答えをまとめよう</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>班でまとめた答え</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td></tr> </tbody> </table>		班でまとめた答え																
班員	「理由」をどう答えているか、メモをとる	評 価																									
君/さん		A・B・C																									
君/さん		A・B・C																									
君/さん		A・B・C																									
君/さん		A・B・C																									
君/さん		A・B・C																									
君/さん		A・B・C																									
班でまとめた答え																											
<p>③各班の答えを評価しあってみよう</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>班</th> <th>「理由」をどう答えているか、メモをとる</th> <th>評 価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>班</td><td></td><td>A・B・C</td></tr> <tr><td>班</td><td></td><td>A・B・C</td></tr> <tr><td>班</td><td></td><td>A・B・C</td></tr> <tr><td>班</td><td></td><td>A・B・C</td></tr> <tr><td>班</td><td></td><td>A・B・C</td></tr> <tr><td>班</td><td></td><td>A・B・C</td></tr> </tbody> </table>			班	「理由」をどう答えているか、メモをとる	評 価	班		A・B・C	<p>④最終的な自分の意見</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>今日の学習をふまえて、自分でもう一度考えた答</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td> </td></tr> </tbody> </table>		今日の学習をふまえて、自分でもう一度考えた答																
班	「理由」をどう答えているか、メモをとる	評 価																									
班		A・B・C																									
班		A・B・C																									
班		A・B・C																									
班		A・B・C																									
班		A・B・C																									
班		A・B・C																									
今日の学習をふまえて、自分でもう一度考えた答																											

相互評価、自分の最終意見形成のためのワークシート

キ 成果と課題

【指導者が「B」と評価した生徒について（1）】（以下、「生徒 i」とする。）

資料ア（生徒の最終解答）

**④最終的な自分の意見**  
今日の学習をふまえて、自分でもう一度考えた答え

- ・白村江の戦いで唐や新羅に敗し、もう敗戦しないよう西日本の守りを固めるなどの国力を高めたため、その高めた国力が、律令国家をつくるきっかけになっていった。
- ・中大兄皇子が大化の改新を行う事（公地公民や戸籍を全国につくるなど）唐にならった方法で、天皇中心の

「生徒 i」は、外国との関係について、白村江の戦いという歴史的事象を基に記述している（資料ア、上段）。しかし国内の政治については未完成である（資料ア 下段）。これに対し、指導者は、その後続く文章について資料イを基にするように指導をした。指導の結果として、「天皇中心の国家をつくり、政治を行おうとした。」と解答することができた。

資料イ（生徒の第3時の解答）

きっかけ 中大兄皇子の新しい政治	理由 中大兄皇子が、大化の改新で天皇中心という政治を固め、確実にしていった。
きっかけ 唐や新羅に白村江の戦いで敗戦	理由 唐や新羅に負けないように国力を高める必要が出てきたから。

【指導者が「B」と評価した生徒について（2）】（以下、「生徒 ii」とする。）

資料ウ（生徒の最終解答）

**④最終的な自分の意見**  
今日の学習をふまえて、自分でもう一度考えた答え

- ・遣隋使を遣い、中国が1つのことを国全体で動いている政治だったので取り入れたら、聖徳太子が亡くなってしまい、蘇我氏が独裁して進めていったが、大化の改新でそれを破り、聖徳太子の望みを受け継いだ。しかし、白村江の戦いで敗れてから国の力を上げようとした。

「生徒 ii」は、第3時の段階では理解が深まっていなかった（資料エ）ため、指導者は、これまでの授業を振り返り、個別の指導を行った。その結果、内容は具体的な歴史的事象を含み、視点も国内外に対して向けたものとなった。

資料エ（生徒の第3時の解答）

きっかけ	理由 まだ、豪族たちが天皇になろうとして反乱をおこしていた中で、推古天皇が即位した。
きっかけ 遣隋使	理由 一人の言う事によって、全員が動くという隋をみて。

【指導者が「A」と評価した生徒について】（以下、「生徒iii」とする）

資料オ（生徒の最終解答）

資料カ（事前に行った復習）

**④最終的な自分の意見**  
**今日の学習をふまえて、自分でもう一度考えた答え**

- 豪族の反乱などで、国が土地も民も管理するという必要が出てきた。その方法を学ぶため、遣隋使や遣唐使を送って、すぐれた政治の仕組みを取り入れていった。国や朝廷がしっかりした政治を行うために律令国家が生まれた。

Q6 なぜ、中大兄皇子(天智天皇)はこのような政治改革を行ったのですか？

中大兄皇子

まず、東アジアの状況が気になっていたんだ。となりの中国には制度の整った大帝国の(唐)がいて、日本は(遣唐使)を送って学んでいたね。そこ朝鮮半島の大国の(高句麗)が対立し、同じ朝鮮半島の「新羅」「百済」も(対立した)。(唐や新羅が追ってくるのに備え、国力を上げる)という必要が出てきたんだ。そのためには団結していることが必要だ。具体的には、(西日本の守りを固めたんだ。天皇を中心とした国の支配するしくみをつくらう。)

「生徒iii」は、最終的な自分の意見（資料オ）の基となる知識を復習した際に、はじめは中大兄皇子が行った政治の目的について、「唐や新羅が追ってくるのに備え」、「日本の守りを固める」という答えをしている（資料カ）。そこに、それぞれの下段に「国力を上げる」「天皇を中心とした国の支配のしくみをつくらう」（資料カ、□部分）と修正を加えている。白村江の戦いという一つの歴史的事象から、国の歴史全体への影響を読み取り、最終解答では「国や朝廷がしっかりした政治を行う」としている。なお、この生徒は班内発表で全員から「A」と判断されている。

【指導者が「C」と評価した生徒について】（以下、「生徒iv」とする。）

資料キ（生徒の最終解答）

**④最終的な自分の意見**  
**今日の学習をふまえて、自分でもう一度考えた**

- きっかけ：遣唐使を送った。
- 理由：唐に送った遣唐使から色々なことを学び、律令という法律の存在を知り、取り入れたと思ったから。

「生徒iv」は、外国との関係や、中国が日本に与えた影響を記述できている（資料キ「理由」、資料ク）。また、第3時の解答（資料コ）より意見の深まりが見られるのは、個別の指導と班活動の成果であると考えられる。しかし、国内の政治についての理解が十分でなかったと考えられる。事前に行った復習の時点で、指導者は個別の指導を行ったが、十分な理解をさせることができなかつたことによる（資料ケ）。

資料ク（事前に行った復習）

<p>Q1 聖徳太子が行ったことを書きましょう。</p> <p>①(冠位十二階)の制度</p> <p>②(十七条の憲法)</p> <p>③(遣隋使)を送った</p> <p>④(法隆寺)を建てた</p>	<p>Q2 目的は？</p> <p>①家柄でなく力や実績で役人を任用すること</p> <p>②役人に心構えをしめすこと</p> <p>③(隋)と対等に外交をおこない、政治のしくみや文化を積極的にとり入れること</p> <p>④仏教を広めること、権威をしめすこと</p>	<p>Q3 なぜ、聖徳太子はこのような政治改革を行ったのですか？</p> <p>聖徳太子</p> <p>①と②は、それまでの日本では(家柄などで役人を決めていた)から行ったんだ。</p> <p>③は、中国はやはり東アジアの中で最も(政治の)しくみや文化( )を持っているから行ったよ。</p>
--	--	--

資料ケ（事前に行った復習）

<p>Q7 天武天皇、持統天皇が行ったことを書きましょう。</p> <p>⑨( 天皇 )の地位を大はばに高めた</p> <p>⑩飛鳥に都を戻し、( 律令 )や歴史書をつくることを命じた</p> <p>⑪中国にならって日本初の本格的な都をつくった。これを( 藤原 )京という</p>	<p>Q8 目的は？</p> <p>⑨天皇中心の新しい身分制度をつくること</p> <p>⑩⑪( )</p> <p>※この後、( 701 )年に( 大宝律令 )が制定</p>
--	---

資料コ（生徒の第3時の解答）

<p>きっかけ 大宝律令がつけられた</p>	<p>理由</p>
<p>きっかけ 唐が律令などの法律をつくった</p>	<p>理由 唐という国が律令などの法律をつくったから。</p>

【全体をとおして】

(ア) 成果の考察

- a 「学習課題の工夫により、生徒が意欲をもって活動に取り組めたこと」

班内において、学習課題に意欲的に取り組んでいた。その要因として、歴史学者に対するインタビューという課題設定とともに、単元のねらいや一単位時間ごとのねらいが明確であったことが考えられる。また、指導者が一単位時間ごとに評価を行い、その都度指導を行ったことで、生徒の知識や技能が深まり、学習課題に意欲的に取り組むことができたと考えられる。

- b 「ワークシートの工夫により、生徒が習得した知識や技能を活用することができたこと」

班で生徒が学習課題を解決するに当たり、習得した知識や技能の確かな理解が前提となる。ワークシートの形式が、きっかけとなる歴史的事象を書く欄とそれを活用して答えを書く欄を分けて書くように工夫したことで、生徒は歴史的事象に基づいて自分の考えをまとめ、班員の意見を評価する活動に取り組むことができた。

- c 「『指導のポイント』を生かした指導と評価の一体化により生徒の意見に深まりが見られたこと」

生徒の相互評価においては、自分の意見を発表し、評価を受けたあとに自分の意見修正した生徒が多く見られた。

また、指導者は、「指導のポイント」に基づいて指導したことで、生徒の理解が深まっていない部分や、多面的・多角的に考察できていない部分を把握し、さらに指導をすることで、学習のねらいをより達成することができた。



- d 「単元を通じた意図的・計画的な指導と評価場面の設定により生徒の思考に深まりがみられたこと」

指導者は第4時のワークシートを評価し、コメントを加えて返却した。その後、第9時の単元のまとめで、学習課題（「古代とはどのような時代であったのかを考察し、説明する。」）を提示し、考察する授業を再度実施した。その結果、第4時で「C」と評価した生徒からも、次のような、思考の深まりを感じさせる文章表記が見られた。（以下、「生徒v」とする）

資料サ（第9時のワークシート）

Q7「古代は、どのような時代だったと言えるでしょうか。自分の言葉でまとめてみよう。」

学んできた技術を利用し、日本を向上させようと努力して、一度は色々な税を納めさせる律令国家ができたが、口分田が減るとともに、位の低い人も国を支配する手伝いをしていなどと言って、高い地位をねらう人たちがたくさん出てきた。その重みで律令国家はくずれたが、たくさんの技術を少しずつ変え、日本独自のものをつくり、国風文化が生まれ始めた日本が変り始めた時代。隋、唐から真似した飛鳥文化、天平文化とはちがう。

「生徒v」は、習得した知識を総合して、古代を大観した。その結果として「日本が変りはじめた時代」（下線部）という答えを出した。また、相互評価の際には、この課題に正対するに当たり必要な基礎知識を意識して班員の評価を行っている（資料シ）。

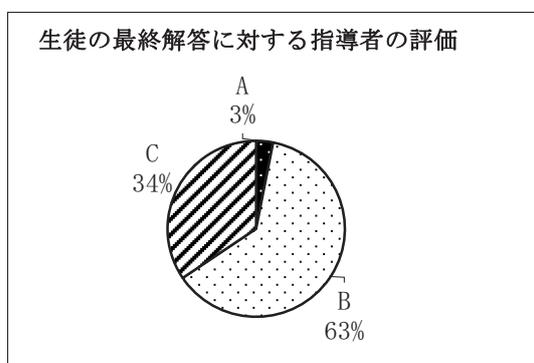
資料シ（第9時における評価場面）

①班の仲間同士で答えを評価しあってみよう

班員名	内容に入っていたら○	メモ(発表を聞いて気がついたこと、疑問に思ったこと)	評価
君/さん	<input type="checkbox"/> 「誰が政治」 <input checked="" type="checkbox"/> 「どのように政治」 <input type="checkbox"/> 「文化」	人物と文化の内容がない。	A・B・ <b>C</b>
君/さん	<input checked="" type="checkbox"/> 「誰が政治」 <input checked="" type="checkbox"/> 「どのように政治」 <input checked="" type="checkbox"/> 「文化」	(自分が)大化の改新を入れるのを忘れた。	<b>A</b> ・B・C
君/さん	<input type="checkbox"/> 「誰が政治」 <input checked="" type="checkbox"/> 「どのように政治」 <input type="checkbox"/> 「文化」	なぜできたのかわからない。	A・B・ <b>C</b>
君/さん	<input type="checkbox"/> 「誰が政治」 <input checked="" type="checkbox"/> 「どのように政治」 <input checked="" type="checkbox"/> 「文化」	少し省いても大丈夫。人物がわからない。	A・ <b>B</b> ・C
君/さん	<input checked="" type="checkbox"/> 「誰が政治」 <input checked="" type="checkbox"/> 「どのように政治」 <input type="checkbox"/> 「文化」	律令とは何かかわからない。内容が少し違う所が一所。	A・ <b>B</b> ・C

(イ) 課題の考察

- a 「学習課題を、生徒の実態に合わせて適切に設定すること」



生徒の最終解答を指導者が評価した結果、「C」に当たる生徒が全体の3分の1以上を占めた。このことから、学習課題をより生徒の実態に合わせて設定する必要があると考えられる。また、習得した知識や技能の定着が十分でなかったと考えられる。

- b 「ワークシートのさらなる改善により、生徒の知識の整理と表現力の向上を図ること」  
今回のワークシートの工夫で自信をもって意見を発表する生徒がいた。しかしその

反面、「生徒iv」のように、思考する材料となる知識を十分に整理できておらず発表に自信をもてない生徒もいた。単元の中で生徒が知識を確実に理解していくことができるワークシートを、指導者は準備していく必要がある。それは、例えばのちに課題を考察する基となる知識について特に詳しく学習できたり、この知識は「外国との関係」、あの知識は「国内の政治」というように知識をきちんと整理できたり関連付けたりできるように工夫されたものである。また、生徒が班活動に積極的に取り組んだ結果、「思考」「判断」はある程度深まった様子が見られるものの、それを「表現」する力には課題が残った。習得した知識、概念や技能が定着しているか、ワークシートの記述を丁寧に読み取り、課題がある生徒には、社会的事象の理解を深めるように年表などを活用して指導を行うとともに、「指導のポイント」を基に、生徒が思考し判断した結果を正確に表現できるよう、指導者がワークシートをさらに改善していく必要がある。



(第3時で使用したワークシート)

「古代国家の歩みと東アジア世界についてまともよう①」jp34~p39		
課題「なぜ律令国家が生まれたのでしょうか？」		1年 組 番 氏名
<p>Q1 聖徳太子が行ったことを書きましよう</p> <p>①( )の制度</p> <p>②( )</p> <p>③( )を送った</p> <p>④( )寺を建てた</p>	<p>Q2 目的は？</p> <p>①家柄でなく力や実績で役人を任用すること</p> <p>②役人に心構えをしめすこと</p> <p>③( )と対等に外交をおこない、政治のしくみや文化を積極的にとりいれること</p> <p>④仏教を広めること、権威をしめすこと</p>	<p>Q3 なぜ、聖徳太子はこのような政治改革を行ったのですか？</p> <p>聖徳太子</p> <p>①と②は、それまでの日本では( )から行ったんだ。</p> <p>③は、中国はやはり東アジアの中で最も( )を持っているから行ったよ。</p>
<p>Q4 中大兄皇子が行ったことを書きましよう。</p> <p>(天智天皇)</p> <p>⑤( )氏をたおした</p> <p>⑥( )の( )をはじめた</p> <p>⑦その内容として、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>-「( )地( )民」</li> <li>-地方の行政区画を定め軍事・交通を整備</li> <li>-はじめて全国の( )を作成</li> </ul> <p>⑧( )の戦いののち、( )を固めた</p>	<p>Q5 目的は？</p> <p>⑤( )氏の力を( )</p> <p>⑥国の組織を整え、( )が治めるようにすること</p> <p>⑦</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・( )</li> <li>・( )が全国を支配するしくみをつくること</li> <li>・全国の人口がどれくらいなのかを調べ、支配に生かすこと</li> </ul> <p>⑧滅亡した( )を助けるためだったが大敗。( )や( )が追ってくるのに備えた。</p>	<p>Q6 なぜ、中大兄皇子(天智天皇)はこのような政治改革を行ったのですか？</p> <p>中大兄皇子</p> <p>まず、東アジアの状況が気になっていたんだ。となりの中国には制度の整った大帝国の( )がいて、日本は( )を送って学んでいたね。そこ朝鮮半島の大国の( )が対立し、同じ朝鮮半島の「新羅」「百済」も( )。日本でも、( )という必要が出てきたんだ。そのためには団結していることが必要だ。具体的には、( )が必要だ。だからおこなったんだよ。</p>
<p>Q7 天武天皇、持統天皇が行ったことを書きましよう。</p> <p>⑨( )の地位を大はばに高めた</p> <p>⑩飛鳥に都を戻し、( )や歴史書をつくることを命じた</p> <p>⑪中国にならって日本初の本格的な都をつくった。これを( )京という</p>	<p>Q8 目的は？</p> <p>⑨天皇中心の新しい身分制度をつくること</p> <p>⑩⑪( )</p> <p>※この後、( )年に( )が制定</p>	<p>Q9 なぜ、2人はこのような政治改革を行ったのですか？</p> <p>天武天皇</p> <p>壬申の乱で、私と対立した大友皇子に協力していた大きな豪族たちは力を( )。これを、天皇がいつそ力を強める良い機会にしたんだ。</p> <p>これまで送ってきた( )使も見てきたように、中国の支配の仕組みは進んでいるから、刺激を受けるね。兄貴も取り組んだけど、私も秩序ある国家をつくらないと。他にもやることはたくさんある。さっそく妻が中国のような大規模な都を造ってくれたよ。</p>

## (2) 地理的分野

### ア 単元名

地理的分野 (2)日本の様々な地域 ウ 日本の諸地域 (カ)「生活・文化を中核とした考察」(東北地方)

### イ 単元の目標

- (ア) 東北地方の地域的特色や、生活・文化との関連から主体的に捉え意欲的に追究させる。
- (イ) 東北地方の地域的特色について、生活・文化を中核として、よりよい社会を思考させる学習課題について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に評価する。
- (ウ) 生活・文化と関連した東北地方の地域的特色や現在抱えている課題を示す資料から、学習課題を考察する際に必要な情報を適切に取り取り、まとめる。
- (エ) 生活・文化と関連した東北地方の地域的特色を理解し、その知識を身に付ける。

### ウ 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
生活・文化を中核とした考察の仕方を基に、東北地方の地域的特色に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、捉えようとしている。	東北地方の地域的特色を生 活・文化を中核とした考察 の仕方を基に、東北らしい 町づくり・町おこしについ て多面的・多角的に考察し、 その過程や結果を具体的か つ論理的に表現している。	東北地方の地域的特色に関 する様々な資料を収集して 有用な情報を適切に選択 し、読み取ったり図表など にまとめたりしている。	東北地方について、生活・ 文化を中核とした考察の仕 方を基に、祭り、稲作、漁 業、歴史的町並みの保存、 伝統工芸、津波に備える取 組などの地域的特色を理解 し、その知識を身に付けて いる。

### エ 単元について

東北地方において、稲作や漁業、伝統工芸、祭りは、人々の生活と密接につながっている。特に祭りは、伝統的な生活・文化の土台の上に現在の社会が形成されていることを捉えやすく、東北地方の地域的特色を理解しやすい。特に、東北地方の太平洋側の地域は、津波に関する伝承や教訓も多く残されており、津波に備えて地域社会をつくってきた。

多くの生徒は、これまでにない東日本大震災による大規模な地震を実際に体験し、身近な生活にも大きな影響を及ぼしたことから、自分と社会を結びつけて考えることができる。つまり、東日本大震災からの復興をテーマとして東北地方を考察していくことは、よりよい社会の形成へ向けて主体的に参画していこうという意識の育成へつながり、思考力・判断力・表現力を効果的に高めていけると考えた。「指導のポイント」を意識することで、自己の考察内容を主体的に振り返り(自己評価)、また相互評価などによって他の意見を積極的に取り入れながら、思考の仕方を身に付けていくことができると考えた。以上のことから、研究主題「思考力・判断力・表現力を育む指導と評価」の検証には「東北地方」の単元が適していると考えた。

オ 単元の指導計画と評価計画（6時間扱い）

時	学習項目	学習内容と活動	指導上の留意点等	評価			
				関	思	技	知
1	東北地方の概観	① 東北地方の地形、気候、都市、人口分布、主な産業などを通して東北地方の地域的特色を理解する。 ② 東日本大震災による被災状況を分布図から読み取る。 ③ 5時間目に「今後のよりよい東北地方に向けて」をテーマに、震災からの復興について考えていくことを確認し、今後の単元学習の目標を理解する。	① 地図帳などの地図資料から、特に自然環境を中心に読み取らせる。 ② 太平洋沿岸部が大きな被害を受けたことに気づかせる。 ③ 最終的に取り組む課題と、「指導のポイント」を示すことで、本単元の学習の目的を明確にする。この時点では「被害にあった建物や漁港を復興させる」程度の考察をさせて、震災を意識させる。			○	○
2	東北地方の祭りや産業	① 伝統的に受け継がれてきた東北の祭りや農業の関係や現代の変容について理解する。 ② 祭りや伝統的な町並みの保存が文化を守ることや観光という側面で現代の生活を支えている点を理解する。	① 電子黒板を活用して写真資料で示し、理解と関心を深める。 ② 東北六次祭りや伝統的な町並みを写真で紹介し、観光資源としての利用や人口減少という課題に対する取り組みについて資料から読み取らせる。			○	○
3	東北地方の生活と工業	① 東北地方で伝統工芸が盛んになった理由を主に気候との関連で考察する。 ② 東北地方の伝統工芸品生産の課題と、交通機関の整備等に伴う東北地方の工業の変化について資料から読み取る。	① 電子黒板で写真資料と地図を提示して、東北6県の伝統工芸品とその分布を理解させる。 ② 震災による被害で世界の工業生産に影響を与えたことを通して、東北地方の特色を捉えられるようにする。			○	○
4	東北地方の災害文化と生活	① 「津波の碑」に刻まれた文章やその数から、東北地方三陸沿岸部が津波に備える取組を行ってきた地域であることを理解する。 ② 防災への取組について、産業や岩手県宮古市田老地区の津波対策の図（地図帳）などの様々な資料から多面的・多角的に考察する。 ③ 大きな被害を受けた東北地方の太平洋側の地域で、今後のよりよい人々の暮らしのために、どのような町づくりをしていくべきかを考察する。	① 「此処より下に家を建てるな」という先人の言葉を守って全員が助かった地域の例を取り上げる。 ② 漁業をはじめ、生活を営むためには沿岸部や低地に居住する方が、都合が良い点や、防災設備の充実が逆に沿岸部への居住を促した点などに気づかせる。ただし、津波と隣り合わせで生活する人々の知恵や工夫についても留意させる。 ③ 電子黒板を活用して画像を見せて津波の被害を理解させる。		○		
5	今後のよりよい東北地方へむけて（本時）	① 東北地方の地域的特色を復習すると共に、東日本大震災の被害について理解する。 ② 東日本大震災からの復興を目指した、東北地方らしい『町づくり・町おこしプラン』について、多面的・多角的に考察する。 ③ 実際の復興への取り組みを知り、東北地方のこれからの生活・文化について関心を深める。 ④ ワークシートに感想と自己評価を書き込む。	② 個人 → 班内発表 → 各班でまとめた内容の全体発表 → 個人の順で考察させて、思考を深められるように配慮する。この際は、相互評価や自己評価を行いながら、考察の仕方を身につけさせる。 ③ 気仙沼の復興計画副題「海と生きる」、東北六魂祭などの現地の動向を紹介する。 ④ 感想や自己評価から生徒の理解度や関心の高さを評価する。		○		
6	まとめ	・ここまで学習してきた東北地方の伝統的な生活・文化から見た地域的特色を、本単元の第1時～第5時で学習した白地図にまとめる。	・授業で学んできた基礎的・基本的な内容を基に、東北地方の地域的特色や、東日本大震災との関係などをわかりやすくまとめさせる。	○	○	○	○

カ 本時（全6時間中の第5時間目）

(ア) 本時の目標

- ・ 東北地方の特色を生かした復興策について、多面的・多角的に考察させる。
- ・ 「指導のポイント」を提示して、生徒自身に自己評価、相互評価をさせることで、論理的、具体的、多面的・多角的に考察させる。

(イ) 本時の展開

	学習項目	学習内容と活動	指導上の留意点	評価
導入 5分	導入	①東北地方の地域的特色について復習する。 ②東日本大震災の被害について考える。 ③本時の目標の提示と説明を受けて、本時の活動内容について理解する。  ・東北地方らしい「よりよい町づくり・町おこし」を考えよう	①最初は各自に思い出させてワークシートに記入させる。その際、電子黒板を活用して、これまでの学習を振り返るスライドを見せて東北地方の地域的特色を振り返る。 ③目標の説明、個人の考察→グループ内発表→班ごとにクラス発表→個人の順に考察していくことを説明する。	
展開 I 40分	よりよい東北地方へむけて (本時)	①学習課題を理解する。  <b>あなたは「東北復興会議」の東北地方代表者の一人に選ばれました。会議の場であなたに質問が来ました。 「東日本大震災で大きな被害を受けた東北地方では、今後の人々がよりよい暮らしをしていくために、どのような町づくりや町おこしをしていくべきでしょうか。できれば30年後も続いていくような『東北地方の地域的特色を踏まえた復興』の姿について教えてください。」</b> 会議のメンバーに、自分なりの考えを述べて、その説明をしよう。  《予想される生徒の記述内容》  ・新しい町づくりでは、被害を受けた町（家屋）の復旧、高台移転の是非や、交通網、産業の復旧・強化（風評被害や塩害その他の被害で減少した農産物の出荷額の回復）、町おこしでは、観光資源として、祭りや米、果物、海産物、伝統工芸品、観光地などの東北地方の地域的特色を踏まえた上で、人々にとって、よりよい生活、よりよい社会について考察させる。  ②考察の前に、相互評価や自己評価の説明を行い、議論への主体的な参加を促す。 ③まず個人で考える。 ④次に班内で発表しあいながら相互評価を行い、理解と思考を深める。 ⑤班ごとに意見をまとめる。  ⑥各班の発表を聞きつつ理解を深め、生徒同士で評価を行うことで考察の仕方を身につける。 ⑦最終的な自分の提案をまとめ、発表する。（2～3人）	①学習課題のポイントを理解させる。  ・「東北地方の地域的特色」を意識させつつ、よりよい東北の姿を多面的・多角的に考察させる。  ②別紙「評価シート」を配布し、相互評価について説明する。 ③机間指導によって相互評価の仕方を指導したり、多面的・多角的な考察ができるように助言する。この際も自分の班の意見を自己評価させる。 ④まとめた意見を各自のワークシートに記入させ、自己評価をさせる。 ⑤相互評価をさせながら、指導者の評価もその都度伝え、最終的な自分の意見を形成する際の指標となるように配慮する。 ⑥「指導のポイント」を意識させながら考察させる。発表内容については指導者がその場で可能な限り評価する。	☒ワークシートの、「最終的な自分の意見」に、「指導のポイント」に従って自分の考察過程を表現することができている。
まとめ 5分	まとめ	①実際の復興への取り組みを知り、東北地方のこれからの生活・文化について関心を深める。  ②ワークシートに感想と自己評価を書き込む。	①気仙沼復興計画の副題「海と生きる」を紹介し、困難にあっても生まれ育った土地で生きていこうとする人々の力強さ、忍耐強さに気づかせる。 ・東北六魂祭の映像から地域を活性化させるということについて理解させる。 ・「目黒さんま祭り」から岩手県宮古市と東京が祭りを通じてつながり、お互いの生活・文化を支え合っていることに気付かせ、自分たちにできることを伝える ②本時の感想と自己評価を記入させる。	☒意欲的に自己評価や感想を記入することができている。

(ウ) 評価のポイント

- ・ワークシートの「最終的な自分の意見」を、評価シートに従ってA、B、Cの3段階で評価する。評価シートに従って、「指導のポイント」ごとに○、×（時に△）で評価し、「評価のつけ方」に沿って、最終的なA～Cの評価をつける。

《思考力・判断力・表現力の指導のポイント》

▼ 問に対して出された意見の…

- ① 根拠を述べる
- ② 根拠がわかりやすく、聞いていて納得できる内容にする
- ③ 根拠を具体的に示す
- ④ 根拠を述べる際、複数の視点をもつ

評価	評価のつけ方
A	①～④が全て十分に満たされている
B	①が満たされており、②も概ね満たされている
C	①～④が全て満たされていない、または不十分

▼生徒用 評価シート (授業後)

23 相互評価シート

組番  氏名

《具体的な評価の仕方》

A	B <sup>+</sup>	B	B <sup>-</sup>	C
(○) ①自分の意見の根拠を述べている (○) ②根拠がわかりやすく納得できる (○) ③根拠が具体的である (○) ④根拠に2つ以上の視点がある				

1《班内の意見》

テーマ:「東北らしい『復興 町づくり・町おこしプラン』」

班員	各自の提案のポイント(メモ)	評価
君/さん	高台に住む。高台での対策を考える	(○) ①自分の意見の根拠を述べている (○) ②根拠がわかりやすく納得できる (○) ③根拠が具体的である (○) ④根拠に2つ以上の視点がある
君/さん	伝統工芸品を全国に売	(○) ①自分の意見の根拠を述べている (○) ②根拠がわかりやすく納得できる (○) ③根拠が具体的である (○) ④根拠に2つ以上の視点がある
君/さん	避難訓練をこまめに行	(○) ①自分の意見の根拠を述べている (○) ②根拠がわかりやすく納得できる (○) ③根拠が具体的である (○) ④根拠に2つ以上の視点がある
君/さん		(○) ①自分の意見の根拠を述べている (○) ②根拠がわかりやすく納得できる (○) ③根拠が具体的である (○) ④根拠に2つ以上の視点がある
君/さん		(○) ①自分の意見の根拠を述べている (○) ②根拠がわかりやすく納得できる (○) ③根拠が具体的である (○) ④根拠に2つ以上の視点がある
君/さん		(○) ①自分の意見の根拠を述べている (○) ②根拠がわかりやすく納得できる (○) ③根拠が具体的である (○) ④根拠に2つ以上の視点がある

2《各班の意見》

自分の班の意見

日常的に防災対策を行う。

班	各自の提案のポイント(メモ)	評価
3班	避難訓練をこまめに行	(○) ①自分の意見の根拠を述べている (○) ②根拠がわかりやすく納得できる (○) ③根拠が具体的である (○) ④根拠に2つ以上の視点がある
7班	工芸品で復興。	(○) ①自分の意見の根拠を述べている (○) ②根拠がわかりやすく納得できる (○) ③根拠が具体的である (○) ④根拠に2つ以上の視点がある
4班	祭りや工芸品で関心をもってもらい、集まったお金で復興する。	(○) ①自分の意見の根拠を述べている (○) ②根拠がわかりやすく納得できる (○) ③根拠が具体的である (○) ④根拠に2つ以上の視点がある
5班	伝統工芸品と祭りで文化を守る。	(○) ①自分の意見の根拠を述べている (○) ②根拠がわかりやすく納得できる (○) ③根拠が具体的である (○) ④根拠に2つ以上の視点がある
6班	津波の恐ろしさを忘れないようにする。	(○) ①自分の意見の根拠を述べている (○) ②根拠がわかりやすく納得できる (○) ③根拠が具体的である (○) ④根拠に2つ以上の視点がある

▼生徒用のワークシート例 (授業後)

23 よりよい東北地方へ向けて

教科書: P210-219  
資料集: P11-181  
地図帳: P...-107

組番  氏名

目標: 東北地方らしいよりよい「町づくり・町おこし」とは何かを考えよう。

★1 「東北地方といえば〇〇」…〇〇にあてはまるものを4つ以上答えよう。

おまつり、稲作、伝統工芸品、  
漁業、津波の被害を受けた。

★2 東日本大震災はどのような被害をもたらしたでしょうか。映像やこれまでの学習からわかることを書いていきましょう。

建物、人命、電気(エネルギー)、食料不足、交通網、物、畑、田、動物、港

《課題》

あなたは「東北復興会議」の東北地方代表者の一人に選ばれました。そこであなたに次のような質問が来ました。

「東日本大震災で大きな被害を受けた東北地方では、今後人々がよりよい暮らしをしていくために、どのような「町づくり」や「町おこし」をしていくべきでしょうか。できれば30年後も続いていくような「東北地方らしい復興」の姿について教えてください。」

会議のメンバーに自分なりの考えを述べ、そのように考えた根拠、理由を説明しましょう。

《考察メモ》 家庭で考えたことを自由にメモして自分の考えをまとめよう。

風評 残す 観光

1. 《課題》に対する自 の意見

★《東北地方らしい「復興 町づくり・町おこしプラン」》

(具体的に何をすべきか)

津波の被害を受けた場所を残す。

東北地方はこれまでも、美しい自然や伝統工芸品、お祭りなどにより、観光地として有名でしたが、津波の被害を受けた場所を残し、津波の恐ろしさを伝え、観光で使われるお金を東北の復興につなげる。

自己評価 B<sup>+</sup>

2. ★《課題》に対する、最終的な自分の意見★

★《東北地方らしい「復興 町づくり・町おこしプラン」》

(具体的に何をすべきか)

東北地方を観光地として栄えさせる。

東北地方はこれまでも観光地として有名でしたが、津波の被害を受けた場所を残し、人々に実際に見に来てもらうことで広島原爆ドームのように人々の記憶に残り続けるし、観光に来て、お金を使ってもらうことが東北地方の復興、町おこしにつながると思ったからです。そして、観光と同時に、風評被害が出ている海、港を見に来てもらって、東北の漁業の安全性を伝え、東北の素晴らしい所を広めていけるように変わるといいと思ったからです。

自己評価 A

ワークシートに書かれたことを自由にメモして自分の考えをまとめよう。

よりよい東北地方について実際に考えることができたか、(A) B・C・D

最終発表を準備して自分の意見をつくらせてもらったか、(A) B・C・D

東北地方の町おこしをさらに深く知ってほしい。

キ 成果と課題

(7) 研究の視点①より、学習課題を設定した。東北地方の学習課題を設定するに当たって留意したのは資料スに示した4点である。これらの条件を満たすために、「東日本大震災からの復興」を学習課題の中心にした。最終的には資料セのような学習課題となった。ポイントは次の4点である。

第1に、「東北地方の地域的特色を生かした復興」を考察させた点である。東北地方の単元を通して習得した「生活・文化を中核とした」地理的分野の基礎的・基本的な知識や技能を活用するようにした(資料スの①、②に対応)。

第2に、復興計画を、「町づくり・町おこし」に焦点化させた。生徒がより考察しやすいものにして生徒の興味・関心をより高めるとともに、単元の目標をより達成できるようにした(資料スの②、③に対応)。

第3に、「30年後の東北地方」を意識させつつ復興について考察することで、持続可能なよりよい東北地方(社会)についての考察を促すよう工夫した。この学習課題に取り組むことが現実の社会について考えることにつながるため、自分と社会の関わりについて考察することができる。つまり、単元の自然な学習の流れの中で社会参画の姿勢を育めるような工夫を行った(資料スの④に対応)。

第4に、生徒がある程度自由に考察し、思考の多様性を確保できるように配慮した(資料スの③に対応)。

上記の学習課題に対する主な成果と検証結果を以下の3点である。

第1に、東北地方の「生活・文化」の特色(「祭り」や「伝統工芸品」の生産、「漁業」、「伝統的な町並み」などの観光資源、津波に備える取組など)を盛り込んで解答をした生徒の割合が86%に達した点である。東北地方の地域的特色を踏まえ、習得した知識や技能を活用し、考察できている生徒が大半であった。

第2に、全ての班で活発に議論が行われ、大半の生徒が主体的に課題に取り組み、考察することができていた。指導者が学習の目標を明確にし、資料スの留意点に沿って学習課題を設定することは、生徒の思考力・判断力・表現力を育むのに有効であった。

第3に、資料ソに示したように、生徒の自己評価から、多くの生徒が積極的に参加していたことがわかる。特に、よりよい東北地方については「真剣に考えることができた」と評価した生徒がほとんどであり、今回の学習課題の設定を基にした単元指導計画が効果的に機能したと考えることができる。

以上の3点から、今回の学習課題の設定は、単元の目標を達成するためにおおむね妥

資料ス 学習課題を設定する際に留意した点

学習課題設定の際の留意点	
①	中核事象(生活・文化)に沿うようにする(学習指導要領の目標に準拠しているか)
②	東北地方の地域的特色をとらえるための基礎的・基本的な知識や技能を活用して解決できるような課題にする
③	生徒が関心をもって主体的に学習活動に取り組む、思考力・判断力・表現力を深めることのできる課題にする
④	社会参画を見据えて、よりよい地域(東北地方)についての考察を促す課題にする

資料セ 本時の学習課題

東日本大震災で大きな被害を受けた東北地方では、今後の人々がよりよい暮らしをしていくために、どのような町づくりや町おこしをしていくべきでしょうか。できれば30年後も続いていくような「東北地方の地域的特色を生かした復興」の姿について教えてください。

資料ソ 生徒の自己評価の結果  
(ワークシートより)

当であり、資料スに示したような留意点を踏まえて学習課題を設定することに一定の効果があつたといえる。思考力・判断力・表現力を育むためには、まず適切な単元を設定し、単元の中に設定した学習課題に対して、多面的・多角的に考察できるように単元を通して基礎的・基本的な知識・技術を身に付けられるような指導が必要である。

①ワークシートに積極的に取り組むことができたか		できた ↑ できなかった	②よりよい東北地方について真剣に考えることができたか	
評価	%		評価	%
A	66%		A	83%
B	34%		B	14%
C	0%		C	3%
D	0%	D	0%	

(イ) 研究の視点②より、今回は、「Ⅳ 研究の方法と内容 1 研究の内容と方法」に示した《思考力・判断力・表現力を育む指導のポイント》に従って、生徒のワークシートを研究員8名全員で分析

した。資料タから、最終的に「A」と評価される生徒が33%上昇して半数の50%に達したこと、おおむね満足できる「B」以上の評価の生徒が全体の84%となったことには一定の成果があつたといえる。また、班活動前と、最終的な自分の意見を比べていくと、全員に何らかの変容があつた。その中で、評価が上がった生徒が全体の57%、変わらなかった生徒が37%、下がった生徒が6%という結果が得られた。半分以上の生徒が何らかの形で評価を上げている。さらに、「B」評価の60%（9名）、「C」評価の20%（1名）は「A」評価に、「C」評価の20%（2名）は「B」評価に上がった。本時の活動の結果、半分以上の生徒が思考力・判断力・表現力に対する評価を上げている。

資料タ 学習課題に対する評価結果  
(ワークシートより)

自分の意見 (班活動前)		→	最終的な自分の意見	
評価	%		評価	%
A	17%		A	50%
B	49%		B	34%
C	34%		C	16%

資料チ 評価C → Bの表現の変化

★《東北地方らしい「復興 町づくり・町おこしプラン」》★

**(具体的に何をすべきか)**  
今までやってきた祭りや伝統工芸品をこれからも続けていき、町の復興を行う。

なぜなら、今までも津波の被害にあっていたが、祭りをやったり、伝統工芸品を作ったりして、復興してきたから、これからも続けていけば、以前のような暮らしができると思うからです。

↓

★《東北地方らしい「復興 町づくり・町おこしプラン」》★

津波のおそろしさを忘れないために、被害にあった建物などを一部残したり、博物館などを作ったりして、次の世代や別の地域の人に伝え、二度とおなじような被害が出ないようにする。また、祭りや伝統工芸品をしっかりと受け継いでいく。

なぜなら、津波の恐ろしさを忘れないため、一部を残し、被害にあった建物など、今回被害にあっていないこれから生まれてくる人たちにも伝えるために授業などで取り上げる必要があると思う。今までも津波の被害にあっていたが、祭りをやったり、伝統工芸品を作ったりして、復興してきたから、これからも続けていけば、以前のような暮らしができると思うからです。

以上のことから、本時の学習課題の設定とそれに基づく単元全体の指導、そして本時における「指導のポイント」の提示とそれに基づく自己評価や相互評価を行いつつ進めた班活動（言語活動）によって、生徒に変容が見られ、多くの生徒の思考力・判断力・表現力が向上したといえる。

では具体的に、生徒はどのような形で学習課題に答え、それを指導者がどのように評価したのか、また、生徒の思考力・判断力・表現力の評価を向上させる要因がどこにあったのかを分析していきたい。なお、分析は、「カ 本時—(ウ) 評価のポイント」に示

では具体的に、生徒はどのような形で学習課題に答え、それを指導者がどのように評価したのか、また、生徒の思考力・判断力・表現力の評価を向上させる要因がどこにあったのかを分析していきたい。なお、分析は、「カ 本時—(ウ) 評価のポイント」に示

してある①～④の項目に沿って行った。

《C → B評価の事例—資料チ》（以下、「生徒iv」とする。）

「生徒iv」は、これまで通り東北らしい「祭り」を行い、「伝統工芸品」を生かす町づくりをすれば、地域を復興できるとしている。「指導のポイント」①学習課題に対する意見と一応の根拠があると判断できる。しかし、「今までも…祭り…伝統工芸品を作ったりして復興してきたから」という根拠だけで、「続けていけば以前の暮らしができる」というのは少々安易で、事象間の関連付けも甘いため、「指導のポイント」②論理性が不十分で、③具体的とも言えないと判断した。また、根拠は上記の一つのみで、「指導のポイント」④複数の視点も入っていない。つまり「指導のポイント」の①以外が十分に満たされていないため「C」と評価した。

最終的な自分の意見では、「被害にあった建物」の「一部」を残したり、「授業」で使ったりなどして、「次の世代や別の地域の人々」に「二度と同じ被害が出ない」ような町づくりを主張している。①学習課題に正対した意見と根拠になっているのはもちろん、③具体的で④複数の視点から考えを述べることができている。ただし、「伝統工芸品」をどのように活用するのかがあいまいで、「祭り」との関連性も薄い。他の部分とも関連付いていないため、②論理性をもう一歩身につけてほしいところである。以上のように、指導のポイントを十分に満たしていないところがあるため、「B」と評価した。

この生徒の属する班の評価シートを分析すると、この生徒の最初の意見に対して、ほとんどのメンバーが④複数の視点から根拠を述べていないと評価をしている。実際に班の中で、「視点が一つしかない」、「視点が複数ある」といった議論が交わされていた。すなわち「生徒vi」は、相互評価を含む班活動をきっかけに「指導のポイント」④を意識し多面的・多角的な考察とその表現の仕方を習得したと考えられる。

《C評価→A評価の事例—資料ツ》

（以下、「生徒vii」とする。）

「生徒vii」は、最初の「祭り」によって「他県」から観光客を呼び込み、「利益」をあげていくことは、今後の町おこしに必要なことであると解釈はできる。しかし、学習課題の核である、復興へ向けての町づくりのビジョンが伝わってこない。これでは、学習課題に対して十分な解答ができていないと判断せざるを得ない。従って、「指導のポイント」①が不十分で、課題に対して正対していない解答であると判断し、評価は「C」とした。

しかし、最終的な自分の意見では、「祭り」は単に「利益をあげ」て町おこしをするだけではなく、その内容を「防災に関する祭り」に具体化して、「震災」について「考えてもらう」ために行うとしている。震災についてこれから先も、現地を訪れた人々に考え

資料ツ 評価C → Aの表現の変化

<b>★《東北地方らしい「復興 町づくり・町おこしプラン」》★</b>
(具体的に何をすべきか) 祭りをを行う。
なぜなら、そうすれば他県の人に来てくれて、東北地方の利益が上がる。
↓
<b>★《東北地方らしい「復興 町づくり・町おこしプラン」》★</b>
(具体的に何をすべきか) 交通網の整備、定期的に防災対策を行い、人々の震災に対する意識を高め、防災対策に関わる祭りをを行い、他県の人にも震災について考えてもらう。
なぜなら、まずは交通網の整備を行います。整備を行わないと、祭りでは他県からの来客者が来ないと利益が上がらないからです。交通網を整備し、防災対策に関する祭りをを行う。防災対策と祭りを同時に行うことで、多くの人に参加してもらえと思うので、そこでも震災に対することを考えてもらういい機会になると思います。

てもらえるような町づくりを目指すべきだとの方向性が伝わる表現になったと判断できるので、①間に正対して考察しつつその根拠を③具体的に述べている上、④多面的・多角的に祭りを位置付けて考察できていると評価した。また、「交通網の整備」→「防災関連の祭りによる集客」→「多くの人に震災についても考えさせる」という関連付けが多少拙いできているため、②論理性も十分であると判断し、「A」と評価した。

ちなみにこの班では、全員の意見をみんなで確認し合いながら、表現方法にまで話し合いが及んでいた。他の班員も全員最終的な自分の意見に④複数の視点を入れようとしていた。相互評価を通して「指導のポイント」を意識し、③具体的かつ④多面的・多角的な思考・判断のもとに表現が変化したといえるだろう。

以上の検証から、評価のポイントを明示し、相互評価を行いつつ議論をさせることで、指導者側が意図する論理的かつ具体的で、多面的・多角的な考察を促し、生徒同士が磨き合うことで思考力・判断力・表現力を育てていくことが可能であると言える。

#### (ウ) 課題

第1に、学習課題の設定や評価をいかに効果的に行うかが課題だといえる。前述の資料スに従って学習課題を設定することは容易ではない。今回の検証授業でも、多くの文献やインターネットから情報を集め、東北地方の実地調査を行うなどして学習課題を設定した。評価も含めて、時間と労力がかかりすぎるため、我々指導者が必要性を認識して実践していくと同時に、より一層の効率化を図ることが今後の課題といえる。

第2に、評価する能力そのものを向上させ、自己評価、相互評価において適切に評価する能力を身に付けさせていくことが課題となる。どうしても友人には甘い評価を試みたり、優しい生徒ほど相手をよく評価してあげようとする傾向が評価シートから顕著に見られた。しかし、自分自身が客観的に評価されることで自分に不足しているものを見出し、思考の幅を広げたり深めたりすることができる。ただし、指導者でも難しい評価を、生徒がそう簡単にできるはずがない。今後も生徒に継続的に評価活動を行わせていく必要がある。

## V 研究の成果

本研究では、「Ⅱ 研究の視点」に示した2点の工夫を行うことで、生徒の思考力・判断力・表現力を育むことができると仮説を立て、研究を進めた。

### 1 研究の視点①について

歴史的分野においては、律令国家が生まれた理由を歴史学者の立場で説明する活動を行った。その際、生徒は歴史的事象のみで説明するのではなく、当時の人々の思いを再現して考察するようにワークシートを作成した。それによって、当時の人々がよりよい社会を形成するために、どのような政策を取り入れたのかを考察するきっかけになった。また、「理由」を「外国との関係」と「日本国内のできごと」の両面から考察するように指示を出すことで、二つの視点から考察しようとする姿が見られた。

地理的分野では、東北地方らしい復興の姿を「復興プラン」として考える活動を行った。東北らしい復興策とすることで、生徒は東北地方の地理的特色を踏まえて考察することがで

きた。「祭り」「漁業」「伝統的な町並み」などの語句が多く見られたことから、思考が深まったと考えられる。

以上のことから、単元のねらいを達成するための適切な学習課題を設定することで、生徒は単元で習得した知識・技能を活用し、主体的に多面的・多角的な視点から思考を行ったと考えられる。

## 2 研究の視点②について

「指導のポイント」を示し、グループワークや自己評価・相互評価を行うことで、生徒は「指導のポイント」を意識して思考を行っていた。このことは、グループワークの中で、「指導のポイント」を意識した会話があったことからもうかがえる。ワークシートからは、グループワークの前後で、根拠が具体的になったり、多面的な視点から論じようとする姿が多く見られた。

また、指導者も「指導のポイント」を明確にもって評価するため、評価を具体的にを行うことができ、評価の精度が向上することが期待できる。生徒に対しても、論述した内容のどのような部分が十分でなかったか、次の指導に生かすことが容易となる。

以上のことから、「指導のポイント」を明らかにして評価場面を設定することは、生徒の思考力・判断力・表現力の向上に効果があったと考えられる。このような指導を繰り返していくことで、更なる思考力・判断力・表現力の向上が期待できる。

## VI 今後の課題

本研究の課題は、次の3点である。

1点目は「努力を要する」状況の生徒に対する指導者からの手立てをいかに行うかである。「努力を要する」状況の生徒は、単元の基礎的・基本的な知識が定着していないことが多い。指導者は単元指導計画を作成する上で、単元で身に付けさせたい知識を整理するだけでなく、それらを定着させていく手立てを常に改善していくことが必要である。

2点目は、「指導のポイント」に沿った指導を繰り返し行っていくことである。自己評価、相互評価の場面で、内容を十分に精査せず、評価を行うこともあった。自己評価や相互評価をしていくとともに、指導者が「指導のポイント」に基づいた具体的な評価を行っていくことで、生徒一人ひとりが「指導のポイント」をより意識できるようになる。それによって、自分に不足しているものを見出して、思考の幅を広げたり深めたりすることができる。

3点目は、「指導のポイント」を示してグループワークや相互評価を行うことが、生徒の柔軟な思考を縛り、最終的な意見が集約されてしまう場合があることである。今回の検証授業でも、班内でまとめた意見や各班の発表を集約した意見と類似した結論に至っている生徒も少なからずいた。生徒の思考力・判断力・表現力の向上に向け、今後につながる大変有効な授業展開であると考えられる。また、他者の意見を素直に聞き入れ、習うことも大切な学びであり、グループワークを実践していく上で、意見を集約することはある。しかし、思考の幅が広がり、深まりつつある2年生の段階で、意見の集約がみられてしまうことには課題が残る。確かに、元々「十分に満足できる」状況の生徒の一部には、他者の意見を取り入れている場合もある。しかし、自分独自の意見から、クラス内で発表された評価の高い意見に引

きつけられてしまい、自分自身の意見を書き換えてしまう場合もある。

現時点では、習熟の度合いに応じて、「指導のポイント」を抽象的なものに変えていき、徐々に思考の幅を広げていくことが有効であると考えられる。1年生の間は具体的な「指導のポイント」、2年生ではこれらを徐々に抽象的なものにしていき、3年生ではより抽象的なものとするか、「指導のポイント」を自分で設定させるなどの発展的な展開も考えられる。今後、研究を続けていく余地があるといえる。

# 平成24年度 教育研究員名簿

## 中学校 ・ 社会

地区	学校名	職名	氏名
新宿区	西早稲田中学校	教諭	輪湖 みちよ
墨田区	立花中学校	教諭	新井 剛広
大田区	羽田中学校	教諭	田中 慎二郎
練馬区	豊玉中学校	教諭	鈴木 拓磨
府中市	府中第三中学校	教諭	佐藤 圭二郎
福生市	福生第一中学校	教諭	小野寺 哲也
清瀬市	清瀬中学校	教諭	木内 貴士
西東京市	田無第四中学校	主任教諭	○西田 知之

○ 世話人

〔担当〕 東京都教職員研修センター授業力向上課

統括指導主事 田口 克敏

東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課

指導主事 藤田 修史

平成24年度  
教育研究員研究報告書

中学校・社会

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成24年度第243号〕  
〔平成25年 3月〕

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課  
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号  
電話番号 (03) 5320-6882  
印刷会社 株式会社 イマイシ